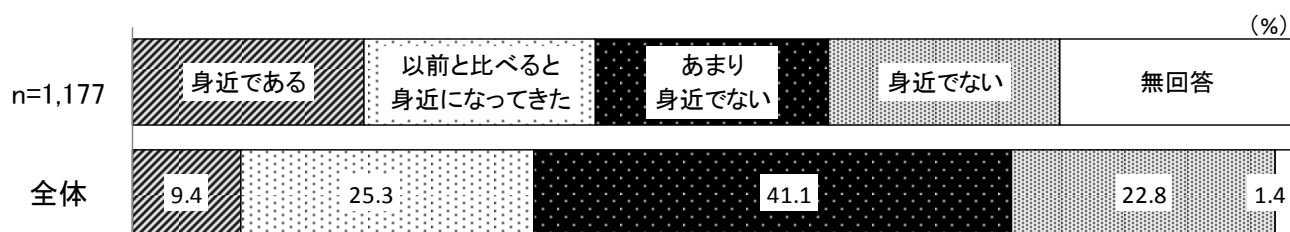


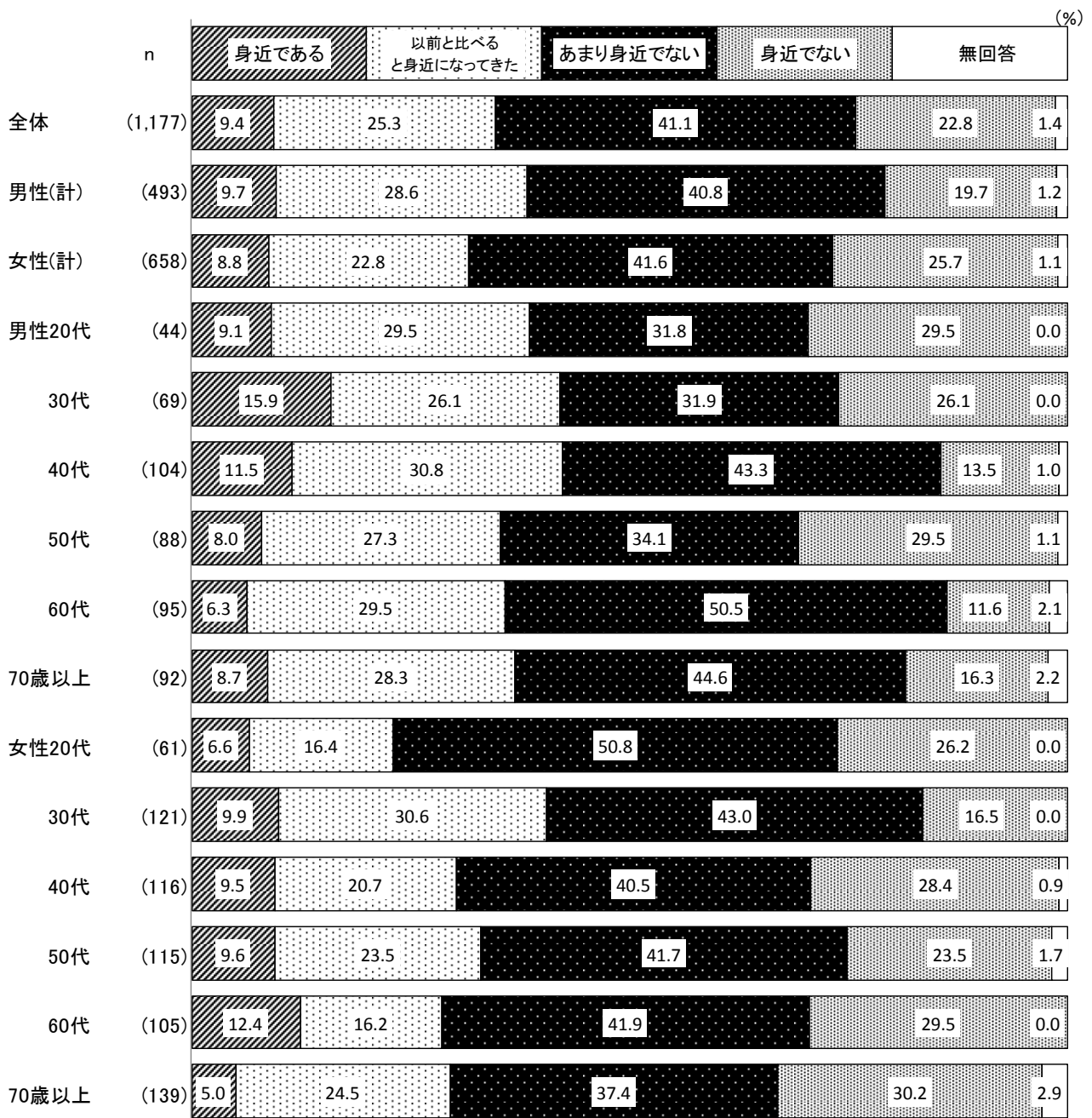
## 9 空港臨海部のまちづくり

問 15 埋立地の空港臨海部では羽田空港や港湾・物流施設、工場などが広がる中に、大森ふるさとの浜辺公園などの公園緑地や海辺の散策路の整備などが進められてきていますが、あなたにとって身近なまちとなってきましたか。(〇は1つ)



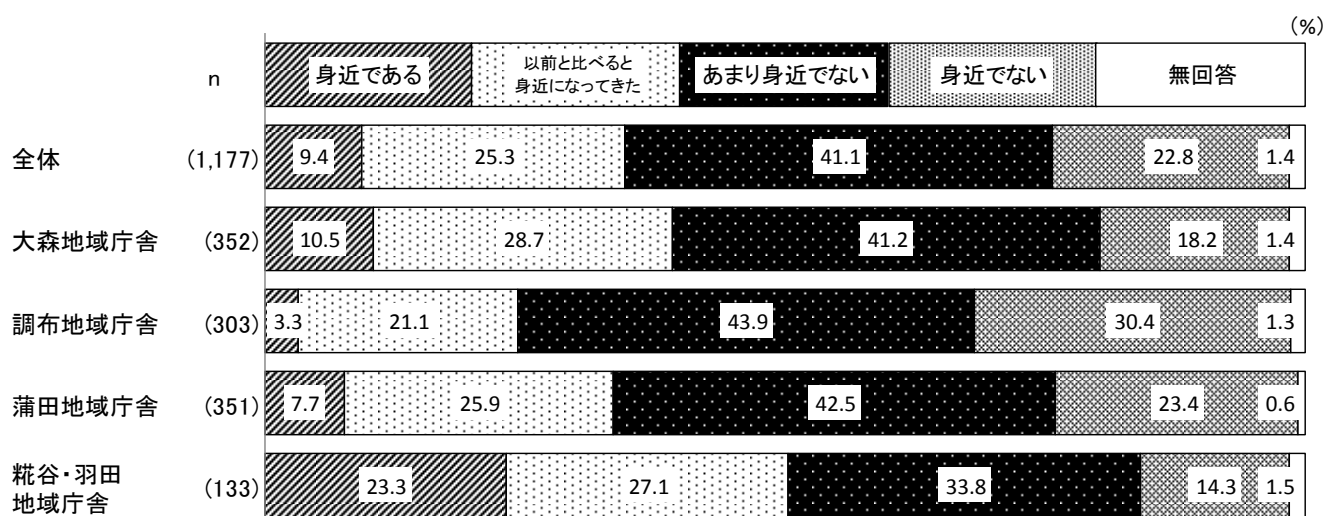
- ・全体では「あまり身近でない」が41.1%と最も高い割合となっている。次いで、「以前と比べると身近になってきた」(25.3%)、「身近でない」(22.8%)、「身近である」(9.4%)の順となっている。
- ・「身近である」と「以前と比べると身近になってきた」を合わせた『身近である(計)』は34.7%、「あまり身近でない」と「身近でない」を合わせた『身近でない(計)』は63.9%となっており6割台半ば近くを占めている。

【身近なまちとなってきた×性／年代別】



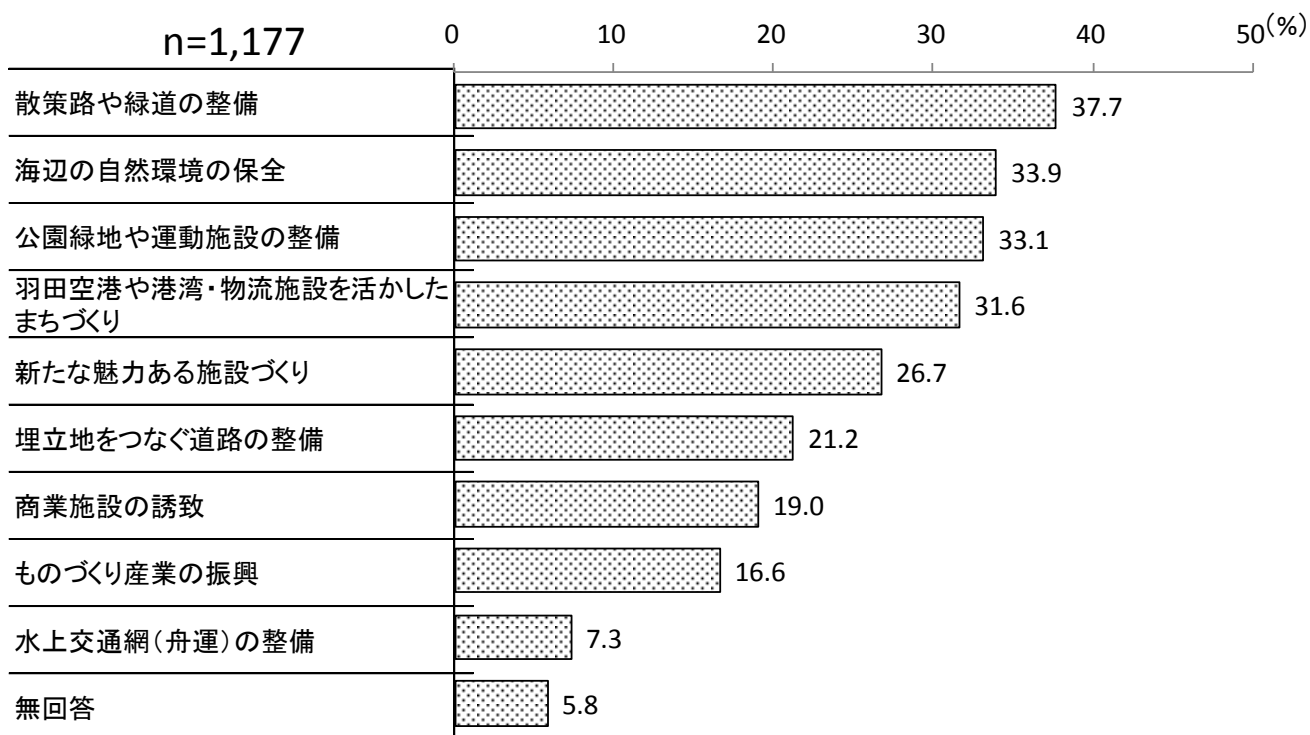
- ・性別にみると、『身近である（計）』では男性（計）が38.3%と、女性（計）31.6%に比べ6.7ポイント高くなっている。
- ・年代別にみると、男性では30代、40代で『身近である（計）』が4割以上を占め、他の年代に比べ割合が高くなっている。一方、それ以外の年代では『身近でない（計）』が6割以上を占める結果となっている。
- ・女性30代では『身近である（計）』が4割を占め、他の年代に比べ割合が高くなっている。一方、30代を除くすべての年代で『身近でない（計）』が6割以上を占める。特に20代では77.0%と高い割合となっている。

【身近なまちとなってきた×地域庁舎管内別】



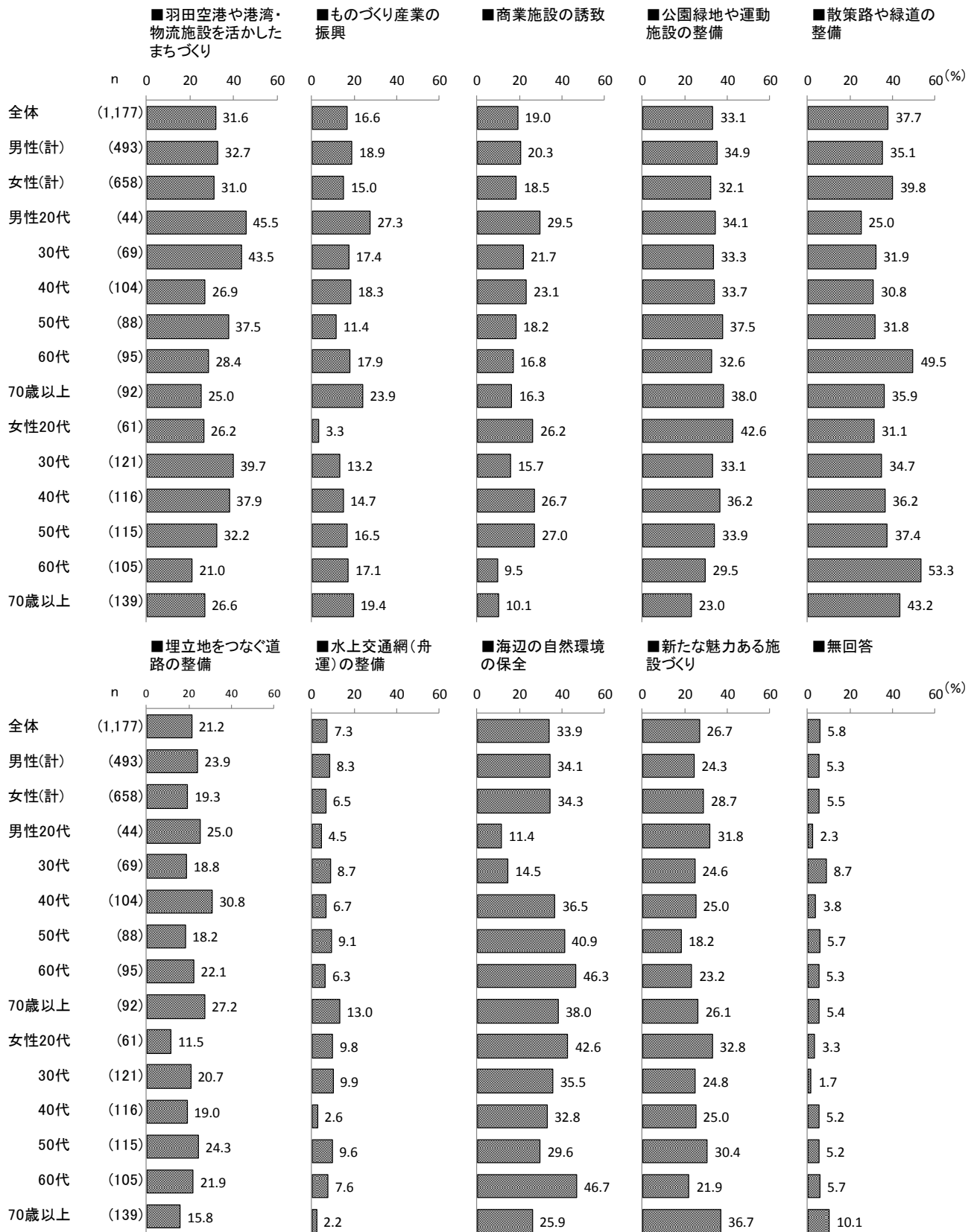
- ・地域庁舎管内別にみると、「身近である」と「以前と比べ身近になってきた」を合わせた『身近である(計)』が、糀谷・羽田地域庁舎管内では50.4%と他の地域庁舎管内に比べ高い割合となっている。
- ・一方、「あまり身近でない」と「身近でない」を合わせた『身近でない(計)』は、調布地域庁舎管内で74.3%と7割台半ば近くと高い割合となっている。

問 16 空港臨海部を、今後区民にとって身近な地域としていくためにはどのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)



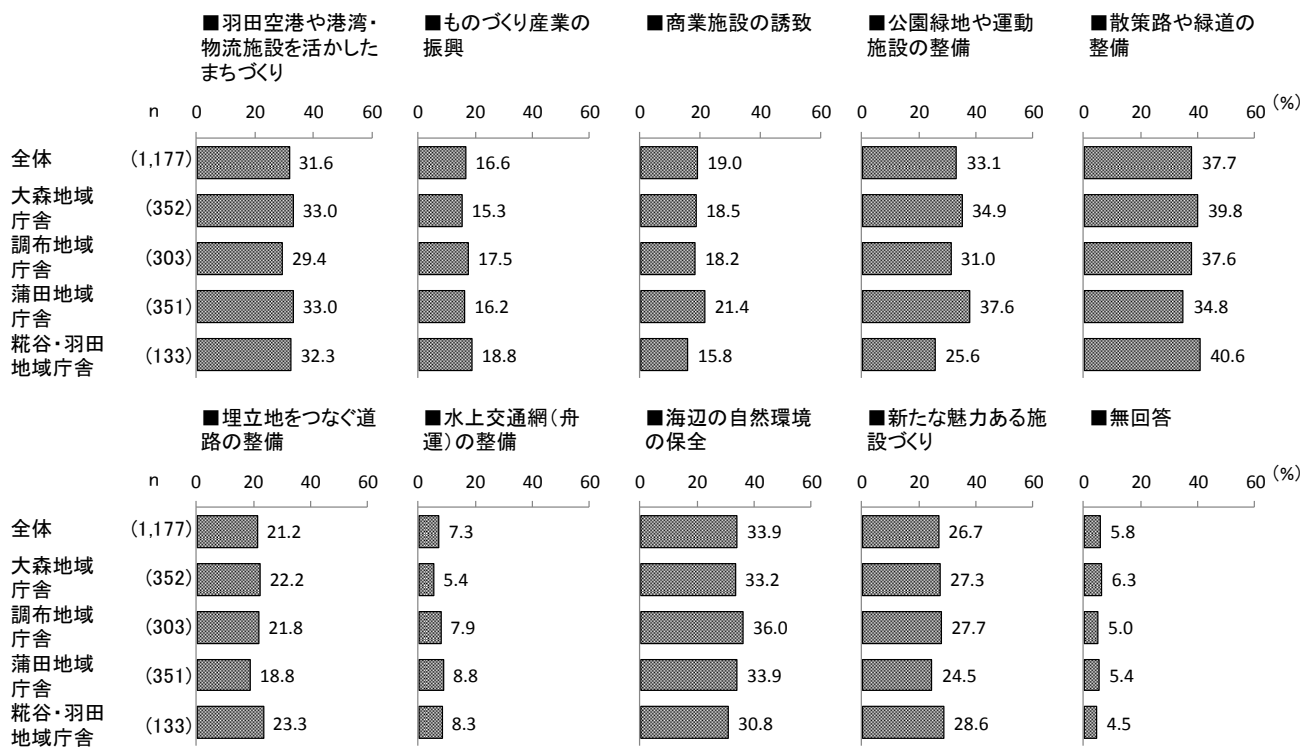
- ・全体で見ると、「散策路や緑道の整備」が37.7%と最も高い割合となっている。次いで、「海辺の自然環境の保全」(33.9%)、「公園緑地や運動施設の整備」(33.1%)の順となっている。

【身近な地域としていくために必要なこと×性／年代別】



- ・性別にみると、「ものづくり産業の振興」では男性（計）が18.9%と女性（計）15.0%に比べ3.9ポイント、「埋立地をつなぐ道路の整備」では男性（計）が23.9%と女性（計）19.3%に比べ、4.6ポイント高くなっている。「散策路や緑道の整備」では女性（計）が39.8%と男性（計）35.1%を4.7ポイント高くなっている。
- ・年代別にみると、男性20代、30代では「羽田空港や港湾・物流施設を活かしたまちづくり」が4割台半ば、40代では「埋立地をつなぐ道路の整備」が30.8%と、他の年代に比べ高い割合となっている。
- ・女性20代では「ものづくり産業の振興」が3.3%と他の年代に比べ低い割合となっている。60代では「散策路や緑道の整備」が53.3%、「海辺の自然環境の保全」が46.7%、70歳以上では「新たな魅力ある施設づくり」が36.7%と他の年代に比べ高い割合となっている。

【身近な地域としていくために必要なこと×地域庁舎管内別】



- ・ 地域庁舎管内別にみると、いずれの地域庁舎管内でもほぼ同様の傾向となっている。
- ・ 「公園緑地や運動施設の整備」では蒲田地域庁舎管内では 37.6% と他の地域庁舎管内に比べ割合が高くなっている。一方、糀谷・羽田地域庁舎管内では 25.6% と他の地域庁舎管内に比べ割合が低くなっている。